

令和 6 年 6 月 1 日

エンジニアリング協会 関係者の皆様へ

一般財団法人 エンジニアリング協会

専務理事

前野 陽一

5 月に入り、暖かいというか暑い日も増えてきました。皆様お元気でお過ごしでしょうか。

先月の専務理事レターでもご紹介しましたが、現在当協会では、事務局員へのアンケート調査に基づき、様々な業務改善に向けた検討を実施しています。その大きな柱の一つが、IT を活用した業務の効率化であり、近年多くの企業で使われ始めた生成 AI の活用も含まれています。

先般の部内の会議において、地下センターの塩崎功さんから、様々な生成 AI を利用してみた自らの体験を発表していただきました。

例えば、当協会では様々な委員会や部会があり、毎回議事録を作る必要がありますが、これが結構な作業量となっています。生成 AI を使えば、こうした作業がかなり効率化されます。また、様々な研究事業では、英語の論文を読む必要がありますが、生成 AI を使えば要旨を日本語にしてもらうことができ、原文を丹念に読むべきか否かの判断が可能となります。生成 AI の利用に関しては、様々な問題点も指摘されているところですが、全く使わないでいるのでは世の中の流れに後れを取るようになると思っています。利用に当たってのルール作りをした上で、利用をしていこうと考えています。

また、当協会の資産の運用に関しても、見直しを行うべき時期に来ていると思っています。当協会は、このところ大型受託案件の獲得や会員企業数の増加、更には事務所移転による施設費の節約などで、毎年の収支をやりくりしていますが、受託案件は必ずとれるものではなく、会員企業数の増加にも限界があるので、中長期的に考えれば、資産運用による収入の増加を図る必要があると考えています。ことに、近年は日本を含め多くの国でインフレ基調にあり、適切な資産運用を行わなければ、資産の実質的な目減りは避けられないものと思っています。他の財団法人や学校法人、宗教法人などの例も勉強しつつ、賛助会員の皆様にご提案をしたいと思っています。

以下、5 月の主な活動についてご報告申し上げます。

[主要な活動内容]

1 講演会の開催

5 月は、5 件のビジネス講演会を実施いたしました。

6 月は、5 件のビジネス講演会を行う予定です。6 月 14 日（金）の山上信吾様の講演は、ハイブリッド（先着 20 名様までは当協会で聴講）で実施する予定ですが、これ以外は全て Zoom Web 配信で行います。

多くの方のご参加をお待ちいたしております。

2 スコットランド国際開発庁 アジア地域ダイレクター(対外直接投資)の交代

5 月 9 日（木）に、英国大使館内で、スコットランド国際開発庁のアジア地域ダイレクター(対外直接投資)交代のお披露目パーティが行われ、参加してまいりました。永年活躍されてきたスティーブン ベーカー様が退官され、後任としてステファン ベングトソン様が就任されました。ベーカー様は、1985 年に来日されて以来、日本で活躍されておられる知日家であり、当協会も共催でセミナーを実施したほか、私のインタビューを受けていただきました。

(https://www.ena.or.jp/?fname=embassy_202308.pdf)

後任のベングトソン様も、当協会で開催したセミナーや賀詞交歓会にお越しいただいております。

なお、スコットランド国際開発庁は、当協会の協力会員でもあります。

3 アジア開発銀行（ADB）駐日代表 田村由美子様への訪問

5 月 15 日（水）に、アジア開発銀行（ADB）駐日代表 田村由美子様ほかスタッフの皆様をご訪問しました。

アジア開発銀行は、アジア・太平洋における経済成長及び経済協力を助長し、開発途上加盟国の経済発展に貢献することを目的に設立された国際開発金融機関であり、コロナ蔓延以前は、当協会も様々なコンタクトをしてまいりましたが、コロナのせいで、やや縁遠くなっていました。

当協会において、アジア開発銀行の経済見通しなど、様々な活動に関する講演をお願いし、快くお引き受けいただきました。

4 JFE エンジニアリング株式会社 代表取締役 福田 一美様への訪問

5 月 21 日（火）に、本年 4 月に JFE エンジニアリング株式会社 代表取締役に就任された福田 一美様を訪問し、最近の当協会の活動状況をご説明するとともに、当協会理事としてご指導をお願いいたしました。

5 連絡担当者会議及び交流会の開催

5月30日（木）に、連絡担当者会議及び交流会を行い、最近の当協会の活動状況と令和6年度の事業計画・予算をご説明するとともに、会員関係者間の交流の機会を設けました。

数多くの方にご参加を賜り、感謝申し上げます。

6 その他

5月に入っても、日本においても国際社会においても様々なことが起こり、私のような素人には「本当に何か起こっているのか」が分かりづらい状況です。（まあ、分かったからといって、どうすることもできないのですが）

最近、私が気になったことを、アドホックに書いてみます。

① 中国 習近平国家主席の欧州訪問

習近平主席は、あまり外遊がお好きではないようですが、5月5日から、フランス、セルビア、ハンガリーを訪問しました。EU全体としては、中国製電気自動車（EV）や太陽光パネルの安値輸出に懸念を示している中で、米国などとは距離を置くフランスやハンガリーを味方につけようということなのでしょう。他方、フランスからは中国に対してロシア支援を控えるように申し入れがあったようであり、習近平主席の思惑通りに事が運んだかどうかは、わかりません。また、セルビアは親中国ではありますが、そもそもEUのメンバーではないので、どこまで効果があったのでしょうか。

② スロバキア フィツォ首相銃撃事件

5月15日に中欧スロバキアのフィツォ首相が銃撃されました。命に別状はなかったようですが、一時重体に陥ったとのこと。フィツォ首相は、対露経済制裁に否定的な立場をとり、統治手法も「強権的」との批判もあったようです（フィツォ首相は、直近では、親露的な姿勢を改めつつあったとの情報もあります。）。EUの結束もなかなか難しいようです。

③ 仏領ニューカレドニアにおける暴動事件

同じく5月15日に、南太平洋のニューカレドニアで暴動が起きました。きっかけは、仏領ニューカレドニアの独立の是非を問う住民投票において、新たにフランスから移住してきた人々に投票権を与えるかどうか、ということのようです。独立派の背後には中国がいるとも言われ、TikTokの使用が禁止される動きもあるようです。太平洋の島嶼国には、近年中国が外交攻勢をかけており、その帰趨が注目されます。

④ 中露首脳会談

5月16日に行われた中露首脳会談については、日本のマスメディアも様々な情報を流しており、私が付け加えることもないのですが、「中露のパートナーシップはさらに深まった」とする報道がある一方、「習近平主席は、対米関係のさらなる悪化を恐れ、ロシアとは一定の距離を置こうとしている。習近平主席とプーチン大統領のツーショットを見ると、習近平主席の顔がぎこちない。」といったことを言う人もいます。前者の見解を支持する方が多いのですが、部外者の私にはよくわかりません。

ウクライナ紛争の話はほとんど共同声明には出てこず、中仏首脳会議で取り上げられた「パリオリンピック開催期間中の停戦」は、共同声明にも共同記者会見にも出てきませんでした。

⑤ 中国 地方政府による住宅在庫の買い取り

5月17日に、中国 何立峰（ハァ・リーファン）副首相が、不動産不況対策として、「地方政府が住宅の過剰在庫を買い取り、安価に国民に提供する」とおっしゃったそうです。

「そのような余剰資金が地方政府に存在するのか」「仮に銀行から借り入れをするとした場合、その借入金を返済する余力が地方政府にあるのか」

「この政策により、安価な住宅が供給された場合、住宅価格の相場が下落し、既に住宅を保有している中国人民は大きな損失を被ることになるのではないか」といった様々な疑問がわくのですが、まあ、どなたもお答えはいただけないでしょう。

最近、「頭のいいと言われている人が、何故『ユダヤの陰謀』『ディープステート』といった非合理的な議論を信じてしまうのか、ということに興味を持ち、何冊かの書籍を読んでいます。少しまとまりましたら、このレターに書いてみたいと思います。

7 その他（その2）

以上の文章で、今月の専務理事レターを終了しようと思ったのですが、その後、興味深い事件が起こったので、追加で書かせていただきます。

① イランのライシ大統領のヘリコプター事故による死亡

5月19日に、イランのライシ大統領がイラン北西部の山岳地帯で、ヘリコプター事故により亡くなりました。イスラエルとの間で緊張関係にある中での事故であったため、当初は「暗殺？」といった噂もSNS上に流れましたが、現場の写真などから、間違いなく事故であることが証明されました。（乗っていたヘリコプターが、米国製であることは驚きましたが）

この死亡事故を受けて、日本を含む各国政府は弔意を表しましたが、興味深かったのは、米国政府や議会関係者が、弔意を簡単に述べた後、「ライシ大統領が行ってきた人権侵害の罪は無くなるものではない」「ライシ大統領の死によって、世界がより安全になることを期待する」といったコメントがあったことです。確かに、イランは、1979年の「イスラム革命」以降、米国を「敵性国家」としてきたことは事実ですし、近年中露とのきずなも深めていることも、米国を刺激していることはわかりますが、「ここまで言うかな」というのが、というのが正直な感想でした。ところが、ライシ大統領の死亡を一番喜んでいるのは、多くのイラン国民なのではないか、と思うようになってきました（もちろん、悲しんでいるイラン国民も多いと思いますが）

以下、5月20日付けの「Guardian 紙」（英国）の記事から、その状況をご紹介します。私が、読んだ記事は、「Who was Ebrahim Raisi and what were his policies at home and abroad?」と「"People are in no mood to mourn": mixed reactions in Tehran after death of President Ebrahim Raisi」という二つの記事です。

この記事によれば、ライシ大統領は1960年生まれで、テヘランの大学でイスラム法を学んだ後、25歳の若さでテヘランの次席検事に抜擢されたとのことです。1988年に、数千名の政治犯が死刑に処せられる、という事件がありましたが、ライシ氏はこれを主導したメンバーの一人であった、と言われています（本人は否定しています。）。その後、テヘランの首席検事、イラン国の検事総長といった主要なポストを歴任した後、2017年の大統領選挙に出馬しましたが落選、2021年に再度大統領選挙に出馬して、史上最低の得票率でしたが、大統領に当選しました。

ライシ大統領は、最高指導者のハメネイ師との関係が良好だと言われており、高齢のハメネイ師の後任の有力候補の一人と見られていました（イランでは、大統領は最高権力者ではなく、選挙では選ばれない「最高指導者」が最高権力者です。）

ライシ政権下の2022年9月には、頭髪を隠すスカーフを適切に着けていないことを「風紀警察」に咎められたクルド人女性が、警察の殴打によって死亡したとされる事件（警察側は、女性の持病が原因と主張）をめぐって、大規模な反政府運動が起こり、1万9千人以上が逮捕され、60人の子供を含む500人以上が警察によって殺された、とされています（現在では、スカーフをつけない女性が街中を歩いても、風紀警察は事実上放任しています。）。

こうした一連の事件の中で、反体制派がライシ大統領につけたあだ名は、「Butcher of Tehran」（テヘランの殺人鬼）です。ライシ大統領の死に対し

て、家族を殺された遺族は、「ライシ大統領の魂は、決して平穏に眠ることはない」「人の死を喜ぶことは不適切だが、ライシ大統領は『human』ではないので、喜んで問題ない」といったコメントを、「Guardian 紙」に寄せています。イラン国営放送が、ライシ大統領の死亡を発表した数時間後には、「お祝いの花火の打ち上げ、歓喜の踊り」が SNS 上に多く登場したとのこと。

ライシ大統領の後継者も、ライシ大統領と同様の思想信条を持った方になると思われるので、短期的には何も変わらないと思いますが、中長期的にイランの「祭政一致」体制が継続できるかは、未知数だと思います。

なお、日本のマスメディアは、今でも「イランは、古くから親日国」という表現を使いますが、2019 年に安倍総理大臣（当時）がイランを訪問した際には、ハメネイ師との会談当日に、日本のタンカーが攻撃を受けるという事件がありました（イラン側は否定していますが、イラン革命防衛隊による攻撃というのが、一般的な見方です。）。安倍総理の説得に対しても、イラン側の態度は全く変わっておらず、少なくとも政治の世界では、「イランは、古くから親日国」という考え方は捨てたほうがいいと思います。

② ロシアで国防省・軍幹部の拘束が相次ぐ

日本のマスメディアでは、あまり大きく報道されていませんが、5 月 23 日のロイターの記事によれば、ここ 1 か月で、収賄容疑などで拘束された国防省・軍幹部（イワノフ国防次官、国防省人事責任者のクズネツォフ中将、第 58 軍元司令官のポポフ少将など）は、5 人に及ぶとのこと。私が気づいたのは、ドイツ公共放送（DW）の報道で、軍参謀次長のシャマリン中将がロシア連邦捜査委員会によって拘束された、ということを知ったのがきっかけです。DW は、「容疑の理由として、『シャマリン中将の妻が高額の宝石などを多数保有している』ということが挙げられているが、これは、ロシアではごく普通のこと、ウクライナ侵攻がうまくいっていないことの責任を取らされたのではないか」としていました。

本当のことはわかりませんが、ウクライナ侵攻中に軍幹部を多数拘束するというのは、「第 2 次世界大戦直前に軍幹部を多数粛清したため、開戦当初、ナチスドイツ軍に敗北を続けたスターリン」を思い出してしまいました。

新国防相であるアンドレイ・ベロウソフ氏は、「政治的なパージではない」と言っていますが、どうなのでしょう？

6月の講演会の実施について

令和6年6月1日
エンジニアリング協会
専務理事 前野陽一

6月は、5件のビジネス講演会を開催する予定です。

6月14日(金)の山上信吾様のご講演のみ、Zoom Web 配信および先着20名様まで当協会にて聴講いただけるハイブリッド開催ですが、それ以外のご講演は全てZoom Web 配信のみで行う予定です。皆様のご参加をお待ちしております。
なお、正式のご案内は別途お送りします。

1 プラントのエンジニアリングに変革をもたらす次の一手とは

(6月6日(木)) Hexagon Asset Lifecycle Intelligence

インダストリーコンサルタント 山内 重樹 様)

1990年代後半からプラント設計に3D CAD システムが利用されるようになり、プラントのエンジニアリングが大きく変革されました。

本講演では、3D CAD システムのように、次のプラント業界に大きな影響を与えるIT技術は何かについて、お話を頂きます。

エンジニアリング部門の皆様にお聞きいただければ幸いです。

2 再生可能エネルギー事業における損害保険市場の動向

(6月7日(金)) 損害保険ジャパン株式会社

企業営業第六部 第三課

課長 只腰 幸雄 様

主任 平野 純一 様

企業営業支援部 SX 推進グループ 洋上風力発電チーム

主任 丸山 美帆 様)

損害保険はリスクを保険会社に移転し安定した事業経営を実現するための機能を提供していますが、その補償内容はプロジェクトごとに定められることが多く、保険手配の方法も異なります。また、自然災害などに起因する事故の増加が損害保険市場全体に影響を及ぼしており、再生可能エネルギー事業における損害保険でも引受方針の見直しが行われています。

本講演では、再生可能エネルギー事業(風力・太陽光・バイオマス)における損害保険の内容及びその市場動向についてご説明いただきます。

エネルギー部門やリスク管理部門の皆様のご参加をお待ちしています。

3 Society 5.0 時代を拓く

エグゼクティブとマネジメント層への教育と人財育成

(6月13日(木) 北九州工業高等専門学校

生産デザイン工学科 知能ロボットシステムコース

教授 久池井 茂 様)

DX や第4次産業革命において、ロボット・IoT・AI・ビッグデータなどの技術革新が進展している中で、エグゼクティブやマネジメント層が果たすべき役割や、必要なスキルやリーダーシップについても、大きく変容しています。

本講演では、Society 5.0 時代における教育と人財育成の重要性に焦点を当て、課題に取り組むためのヒントを提供します。

人事部門の皆様を中心に、お聞きいただければ幸いです。

4 駐豪大使から見た外交最前線と日本外交の課題

(6月14日(金) TMI 総合法律事務所 特別顧問

(元 外務省経済局長／前 駐オーストラリア特命全権大使)

山上 信吾 様)

講師の山上様は、外務省経済局長時代に当協会で講演をいただいたので、覚えている方も多いかと思います。

その後、駐オーストラリア特命全権大使に栄進され、現在はTMI 総合法律事務所 特別顧問をなさっております。

本講演では、40 年間にわたって外交官を務められ、インテリジェンス担当と貿易交渉担当の局長ポストで外交に臨まれたことを踏まえ、在外公館の情報や支援体制の活用のあるり方を含め、日本企業の海外展開に当たって留意すべき点、さらには日本外交全般の課題や今後の改善について、率直な所見を述べていただきます。

経営幹部の皆様を含め、数多くの方に是非お聞きいただければと思います

(注) 外務省退官後、「中国「戦狼外交」と闘う(文春新書)」と「日本外交の劣化 再生への道(文藝春秋社)」という2冊の著書を出されています。考えさせられる優れた本だと思います。

5 サプライチェーンマネジメントの重要性とエンジニアリング業界への期待
(6月21日(金)(一財) グローバル・コンパクト・ネットワーク・ジャパン
チーフプランニングマネージャー 木下 浩二 様
プロジェクト統括マネージャー 奥脇 果穂 様)

近年、環境、人権をはじめとして企業に求められるサステナビリティ活動及びその情報開示要請が拡大する中で、企業グループの枠組みを超えたサプライチェーンに対するマネジメントが注目されています。

今回の講演では、なぜそうした動きが活発になってきたのか、社会情勢も交えてお話しいただくとともに、エンジニアリング業界に求められる役割、今後の期待などについてもお話しいたします。

企画部門や環境部門の皆様にご参加いただければ幸いです。